景色が一変した故郷、宮城県女川町
五七五にこめる中学生たちの想い

羽鳥書店 羽鳥書店新刊案内

パターン配本はありません。希望する部数での事前指定をお願いします。 2012年7月下旬発売予定

おながわいっちゅうせい
女川一中生の句 あの日から

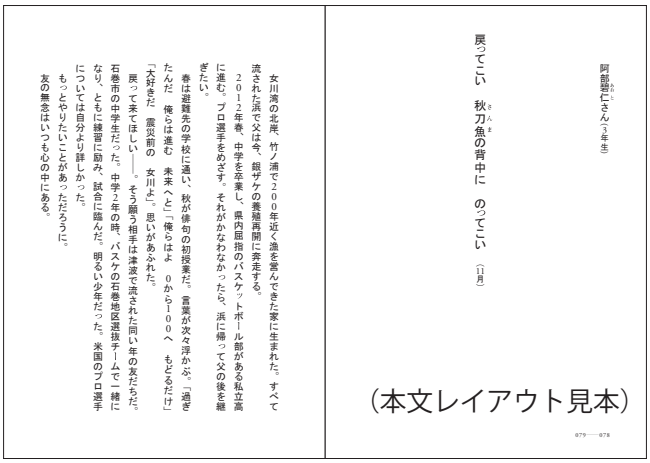
編者 小野智美（朝日新聞記者）

ISBN：978-4-904702-36-9 / Cコード0030 / 本体価格：９００円 / Ａ６判・並製 / １６０頁

2011年5月と11月、女川第一中学校の生徒たちは俳句を作った。

津波で家族、自宅、地域の仲間、
故郷の景色を失った生徒たちが、
自分を見つめ、指折り詠んだ五七五。

友や教師や周囲を思いやり
支えあう中学生たち。
心の軌跡を丹念にたどる。



阿部碧仁さん（3年生）

戻ってこい 秋刀魚の背中に のってこい （11月）

女川湾の北岸、竹ノ浦で200年近く漁を営んできた家に生まれた。すべて流された浜で父は今、銀ザケの養殖再開に奔走する。

2012年春、中学を卒業し、県内屈指のバスケットボール部がある私立高に進む。プロ選手をめざす。それがかなわなかったら、浜に帰って父の後を継ぎたい。

春は避難先の学校に通い、秋が俳句の初授業だ。言葉が次々浮かぶ。「過ぎたんだ 俺らは進む 未来へと」「俺らはよ 0から100へ もどるだけ」「大好きだ 震災前の 女川よ」。思いがあふれた。

戻って来てほしい――。そう願う相手は津波で流された同い年の友だちだ。

石巻市の中学生だった、中学2年の時、バスケの石巻地区選抜チームで一緒になり、ともに練習に励み、試合に臨んだ。明るい少年だった。米国のプロ選手についてはは自分より詳しかった。

もっとやりたいことがあっただろうに。

友の無念はいつも心の中にある。

（本文レイアウト見本）

079――078

記者である編者は、生徒たち一人ひとりと対話を重ね、彼らの俳句を紹介する記事を執筆した。

2012年1月13日～4月13日に朝日新聞宮城版に連載された記事の全文、および女川一中の担当教諭の寄稿、記事の後日談などの書き下ろし文章も収録。

編者プロフィール：小野 智美 （おの さとみ）

朝日新聞記者。1965年名古屋市生まれ。88年、早稲田大学第一文学部を卒業後、朝日新聞社に入社。2011年9月から仙台総局。宮城県女川町などを担当。著書に『50とよばれたトキ――飼育員たちとの日々』（羽鳥書店、2012年）。

（株）羽鳥書店
〒113-0022 東京都文京区千駄木5-2-13-1F（営業・糸日谷） TEL 03-3823-9320 FAX 03-3823-9321

番線印	書名	著者	本体価格	ＩＳＢＮコード	冊数
	女川一中生の句 あの日から（はとり文庫004）	小野 智美	900円	978-4-904702-36-9	
	５０とよばれたトキ― 飼育員たちとの日々	小野 智美	1,900円	978-4-904702-33-8	
	夢十夜を十夜で（はとり文庫003）	高山 宏	1,300円	978-4-904702-30-7	
	漢文スタイル	齋藤 希史	2,600円	978-4-904702-09-3	
ご担当者名	● 注文扱返品条件付での出庫となります。				